

6. 寺内ざんざか踊り^{てらうちざんざかおど}

■ 指定日

昭和45年3月20日

■ 種別

兵庫県指定無形民俗文化財

■ 年代

江戸時代

■ 所在地

朝来市和田山町寺内

■ 所有者

山王神社ざんざか踊り保存会



■ 内容

寺内の山王神社(佐伎都比古阿流知命神社)において、毎年7月15日(現在は7月の第3日曜日に変更)、子孫の繁栄と五穀豊穡・天下泰平を祈念し、奉納される太鼓踊りである。踊り手は茶褐色に水玉模様の襦袢・股引という山王神社の使者であるサル^{サル}の装いで、腰の太鼓をたたきながら輪になって踊る。輪の中心では「しない」(12ヵ月を示す12本の竹すだれに365日を示す365枚の紙しでを取り付けたもの)を背につけた二人が、それを互にからませたり、地面に打ちながら踊る。さらに笠をつけて、特殊なうちわを振りつつ踊りながら全体の指揮をとる「新発意」(しんぼし)二人がいる。

「太鼓踊り」ともいわれているが、歌に合わせて打つ太鼓の音が、あたかも「ざんざかざっとう、ざんざかざっとう」と響くこと、12種の歌のいずれにも「ざんざかざっとう、ざんざかざっとう」の囃子が伴うことから「ざんざか踊り」と名付けられたらしい。